

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2773302175		
法人名	社会福祉法人 モアーマインド		
事業所名	グループホーム モアーマインド		
所在地	大阪市 西成区 天下茶屋北 2-4-14		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	令和5年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域から家族と疎遠の入居者が多いですが、入居者の顔を地域の方々に覚えてもらえるよう、地域の行事に積極的に参加しています。
 入居者様の家族ともよくコミュニケーションがとれており、信頼関係を築くことに努めています。
 食事の面では家庭的な雰囲気が出るよう、手作りの食事を提供しています。
 健康面では身体機能の低下を防ぐために、希望があれば専門職に依頼しリハビリをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を大切にして、利用者が安心して暮らせるよう支援している。入居者の家族とコミュニケーションをより多くとり、信頼関係を築いている。利用者本人の歩きたいという要望に応じ協力病院を受診し、医師の指示でリハビリを始め週2〜3回通院する等事業所での生活リハビリを継続することで筋力低下を予防している。また手作り料理に取り組み、家庭的で暖かな雰囲気と温かい食事を提供している。地域に住む職員が多く地域の情報収集などは至便であり長年(勤続10年4〜5名)勤務しており、利用者・家族も安心して生活している。職場の離職率が少ない事は利用者・家族・事業所にとって利点である。明るい雰囲気ですその人らしさを尊重して支援し、職員間のコミュニケーションが良好であり、介護の質向上に向けて努力している明るい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を絶えず目につくりビング内に掲示し、フロアーミーティングや全体ミーティングで理念にもとづいてのサービス提供や地域交流のあり方についての意見交換を行い、実践につなげられるよう努めている	法人理念は玄関横のエレベーター前と各フロアに掲示し出勤時など各自が目視確認できるようにしている。会議や申し送り時などで何か有れば聴き相談に乗って、気付きなどあればその都度アドバイスや指導をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域でおこなわれる行事やお知らせのポスターなどを通り沿いに張り出したり、地域行事に積極的に参加している。 又、2か月に1度運営推進会議開き、意見交換や情報を提供しあっている。	地域交流はコロナ渦で自粛していた、町会長・民生委員も近隣であり。チラシやお知らせなど持参され情報共有している。区の広報誌は投函される。桜の木が校舎や校庭に沢山あり外から花見見学していた。今年3月末小学校の花見会に職員と利用者が5人～6人ずつ3年ぶりに参加できた。頑張ろう会の祭りに利用者職員が参加11月に地域の火災訓練があり職員が参加する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々や地域包括からの介護相談や入居相談も積極的に受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方々や地域包括の方からの助言も参考にして施設運営の向上に努めている。	運営推進会議は定例化し奇数月(月末)に行っている。コロナ渦では書面会議を行っていた。R5年7月より対面で開催している。議事録は推進会議メンバーと5名居る家族に、面会時手渡しや郵送して毎月のお便りも郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の福祉担当の方と相談したり連絡をとり、入居者様がより良い環境、サービスが受けられるようにしている。	介護保険課は認定更新等の書類・生活保護担当者とは医療券や利用者の生活状況報告など密に連絡している。地域包括センターからは入所の相談などもある。市からはコロナ感染予防の消毒液・マスク・予防着など配布あり、空気清浄機等も援助があつて設備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、マニュアルに沿った研修を実施している。個別事案が発生した場合は事案をもとに検討ミーティングをおこない記録に残し、その結果を職員間で情報共有する。又、残した記録はいつでも閲覧できるように各フロアーに保管している。	「身体拘束適正化の指針」を基に委員会を3・6・9・12月の3ヶ月毎に実施している。、理事長・管理者・ケアマネージャー職員代表と小規模多機能スタッフが参加し併せて勉強会を行っている。研修は年2回以上行い、議事録は職員に閲覧捺印して、周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修をおこない、フロアーミーティングの際も拘束・虐待がないように話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で理解・活用できるように取り組んでいる。 又、該当する利用者がいれば、これを適用する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、体験などを勧め、本人様・家族に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで、契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。 またご意見箱を設置し、絶えずご家族様の要望に対して、管理者及び職員が話し合い情報共有し、説明ができるようにしている。	家族からの要望は特に無く、入居出来て良かったと感謝されている。利用者からは食事のこと等が多い「ご飯がかたい、味が薄い」など意見には好みや状態により対応している。面会は電話で予約して、管理者やケアマネージャーから日頃の生活の様子を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の意見があった時には、フロアーミーティングや全体ミーティングをおこない、情報共有をし、必要に応じて反映させている。	職員の全体会議や個別意見を聴いて、休憩の取り方や有給休暇も話し合って公平に取得している。皆が働きやすい環境を整備している。事業所は築17年と経過しており、ソファなどの設備品は職員会議で購入希望があり新しく設備している。新しい入居者に低床ベッドの必要性を皆で話し合い「電動ベッド」に変更して低床にする事で安全と介護し易くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員個々の勤務状態・実績を把握し、各職員にあった労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に二回自己評価を行い、職員個々の力量を把握し、個別指導や内部研修、勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は稼働会議を行い、同法人内の他施設との情報交換の機会を用意している。また同法人内の他施設共同の研修会を行い、技術の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、体験、自宅訪問など状況に応じて面談の機会を作り、本人が困っている事、できる事、できない事を話し合いながら、サービスの内容を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、自宅訪問など家族の状況に応じて面談の機会を作り、本人への思い、家族様困っている事、希望などを話し合いながら、サービスの内容を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や体験、自宅訪問など、本人、家族の状況に応じて面談の機会を作り、本人の思い、家族の思い、本人、家族が困っている事、希望などを話し合いながら、サービスの内容を構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、出来ない事を把握して、本人と相談しながら援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝えたり、本人が望んでいることを相談したり、異常時には、連絡を入れ対応の指示を仰ぐなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人や入居までに関わりがあった支援者の方などが気軽に訪問できるような雰囲気づくりに努めている。	家族から事業所に電話がある時、希望時には利用者に取り次ぎしている。携帯電話利用は1名居る。独居の利用者が多く面会も郵便物も少ない。馴染みの近隣の散髪屋へ定期的に行っている。最近家族が訪問できる利用者が5名入居されている。訪問し易い雰囲気・環境整備を更に行い関係継続の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで集えるようソファを設置し、いつでも誰でもがくつろいで過ごせる場づくりをしている。 又、皆で参加できるようなゲームやカラオケなど、イベントもおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終結後に届いた書類や手続きなど、家族に連絡を入れるとともに、必要があれば相談や支援をいっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしや、やりたいこと、やりたくない事を本人と相談しながらおこなうようにしている。 又、意思疎通が困難な場合は、本人の表情や仕草で確認し、本人が望んでいるであろうケアを心掛けている	毎日声掛けをして会話の中から希望・要望を聴き取るようにしている。日々のバイタルサイン測定時にも「いつもと違う」など気付きを大切に対応している。意思疎通困難な場合は職員間の情報共有や家族の意見を聴きながら対応し、身振りなどからも介護拒否的な様子を受取り、時間をおいて状況を観て再度声掛けしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様、ケアマネージャーから以前の生活歴や暮らし方、サービス利用の情報を得て把握できるように努めている。 又、生活環境は訪問によって情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごせる環境を整え、本人のできる事、できない事を話し合いながらサービスの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回、モニタリングをおこない、必要に応じて話し合いを持ち、ご本人・ご家族・スタッフの意見が反映した介護計画を作成している。 (モニタリングは必要時にもおこなってる)	介護計画をは利用者・家族等・関係者の意見を参考に暫定1ヶ月から始め様子観察し、短期6ヶ月・長期目標1年間としている。状況状態に変化が生じた場合は、その都度サービス担当者会議を開催し利用者の現状に合った介護計画を再作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いスタッフ全員が共有した情報を持ち、介護支援できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度、話し合い必要に応じて臨機応変な対応をし、職員間でも情報を共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜を観る会、ふれあい祭り、イルミネーション点灯式など、積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、又はご本人希望の医院での定期的な受診ができるよう支援している。	利用者は全員が事業所の協力医療機関の診察を受け健康管理を行っている。受診は月2回職員が病院に同行し、診察が終われば病院から送ってくれる。歯科衛生士による口腔ケアは希望者のみ週1回実施されている。定期的リハビリを受けに病院に行く時も職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活のなかでの、心身の状況や変化などを受診時に伝え適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前は、本人、主治医、施設職員で、病状の説明、治療方針、見通しの説明を受けている。 入院後は身体状況、心身の状態の情報を病棟から得、退院前には本人と共にカンファレンスをし、退院後の療養の指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご本人及び家族様の意向を確認している。終末期には医療機関との連携によりご本人及び家族様との話し合いをもって対応できるよう支援している。	法人の方針で事業所での看取りの事例はない。入居契約時に事業所では看取りを行っていない事、重度化した場合は入院になることを説明し家族から同意を得るようにしている。どうしても入院したくない利用者はできるだけ事業所で対応するが、その後は病院に引き継ぐようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをすべての職員が把握し、フロアーミーティングなどで話し合う機会を持ち、その場に応じた対応をしている。 又、実際に起きた急変時の対応を職員全員で共有する場をもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中と夜間の火災想定で、避難方法や、水消火器を使った消防訓練をおこなっている。 また地域でする防災訓練にも参加している、	年に2回避難訓練を実施している。水消火器を使って消火の方法や避難場所の確認を行っている。近隣で行われる消火訓練にも参加予定である。調査日に備蓄品や保存食について確認したところ消費期限が切れて準備されていない。作成期限が迫っているBCP(事業継続計画)の作成も着手されていない。	年2回の避難訓練と近隣での防災訓練に参加しているが、消費期限が切れたあとは放置せず、災害を常に想定し最低でも3日分の保存食は準備しておくことが望まれる。またBCP(事業継続計画)についても早急に作成することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して必ず個人情報はスタッフルームで話をするようにしている。 又、一人ひとりの個性を尊重し、自尊心に配慮した言葉かけをおこなっている。	個人情報には鍵付きの書庫で保管し、プライバシーに配慮しながら介助を行っている。時間が無い時や職員が少ない時に言う「動かないで」「じっとして」など言葉による抑制は何か他の声掛けの仕方がないか模索している。どの服を着るか、何をするかなどを決める時は利用者に選択肢を与え自己決定してもらうなど個人を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に「問いかけ」の言葉かけを心がけ、自己決定しやすい環境をつくらせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。 又、本人の要望と合わない時には、相談し話し合いを通じて今日することを決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に理髪店、衣類の買い物などに同行し、本人が望む、身だしなみやオシャレができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設のイベントなどで季節感のあるメニューを取り入れたり、日々のメニューを表示するなど、楽しく食事ができるよう支援している。 又、準備や片付けなどができる利用者には一緒にしてもらっている。	メニューを考え食材は専門の業者から配達される。調理は職員が行い、配膳や下膳、テーブル拭きを利用者で行い、できることできない事で役割が分担している。イベント食として鰻弁当やオムライスを取アウトしたり、そうめん大会をしている。手作りのおやつを作って食べ、静かな音楽を聞きながら食べることを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量を調整するとともに、その利用者によって、食べやすいように調理法(ペースト、トロミ、キザミなど)を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄の声掛け、援助を行っている。 又、歯科医、歯科衛生士による口腔ケアを依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせた声掛けを行うとともに自立に向けた支援を行っている。またできる限り、自尊心に配慮して下着の確認、オムツ交換などを行っている。	尿道カテーテルを装着している利用者(2名)以外は全員トイレでの排泄を行っている。利用者自身で尿意や便意を感じてトイレに行く人や職員が適宜声掛けをしてトイレに誘導する人もいる。過去には入院中はオムツを使用していた人も退院後はトイレで排泄できるようになったという事例もある。尿道カテーテルの利用者も排便時はトイレを利用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分行い、排便の状態を把握し、便秘が続くようであれば、医師に相談し内服薬などで排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や時間帯は本人の希望に合わせて、ご本人のペースで入浴ができるよう心掛けている。	職員の勤務状況にもよるが入浴時間は午前、午後と決めずに9時~16時の時間帯で本人の希望に合わせて入浴を行っている。入浴の拒否がある場合は時間や曜日を変えて入浴できるよう対応している。清拭はするが入浴はしないと利用者が、ある職員との信頼関係が出来て最近はややく入浴するようになった。入浴剤は利用者からは不評で利用しないが、湯はその都度入れ替えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで飲み物を出すなどし、ゆっくり話を聞くなど、本人が安心して眠れるよう支援している。 またフロアにソファを設置し、いつでも休憩できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報などで情報を得ている。 分からない時には、医師、薬剤師に相談、指示を仰ぐこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散髪、散歩などでできる限り外出をし、ご本人が選んだ嗜好品を購入している。 又、できる利用者には洗濯、食事の準備、後片付けをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や定期的な声掛けを行い、買い物、散歩、リハビリなどの外出支援をしている。 又、家族同行の外出も支援している。	事業所の近くにコンビニエンスストアがあるので、利用者が買いたい物がある時はそこに買い物に行く。以前は訪問理容で散髪やカットをしてもらっていたが外出を目的として近くの散髪屋を利用するようにしている。事業所の前の道路は車や自転車が減速せずに通行し危なく散歩には適していないため、通院やリハビリで外出の機会を利用して、外気に当たるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している入居者には、希望時に買い物同行し、自身で支払いをしている。 管理できない利用者は、希望時に同行し自身で買うものを選ぶよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは、本人希望でいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は毎日行い、フロアーにはソファを設置しつろぎの空間をつくっている。又、入居者の状態に合わせてテーブルの配置などを変え、入居者様が無理なく過ごせるよう工夫している。又、玄関には植木やメダカの池を設置し入居者がいつでもくつろげるようにしている。	各フロアの広さや形状は同じであるが、飾りつけやソファ、テーブルの配置が変えてあり各フロアで少し趣が違う。廊下が長く両側に居室がある。フロアは日中光が差し込み明るい。感染対策として常に換気を行い、掃除の徹底、食事の準備の風景を見るなど生活感を感じながら居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでテレビを観たりテーブル席で自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置ける場所があり、転倒などに配慮しながら、本人や家族が望む配置の支援をしている。	各居室にはベッド、カーテン、エアコンが設置されている。職員と一緒にする人もいるが、自分で毎日居室の掃除をする人、部屋に自分の好きな植木を置いて世話をする人もいる。フロアで皆と一緒に過ごして疲れたら居室に戻り、寝そべりながら部屋でテレビを観て過ごすこともある。居室は自分が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が、安全かつ安楽に行動でき利用、居室内でのベッドの位置や、家具の配置を利用者とともに決めている。共有部では、障害物のない環境整備を心がけている。		